

船橋市 市民公益活動公募型支援事業 平成26年度 実施事業事例集



発行：船橋市 市民生活部 市民協働課

平成27年5月

「市民公益活動公募型支援事業 実施事業事例集」の発行にあたって

「市民公益活動公募型支援事業 実施事業事例集」は、市民公益活動公募型支援事業を創設した平成22年度から毎年度作成しており、今年度で5冊目の事例集となります。

今回の事例集では、平成26年度実施事業として採択された17件の事業について、各市民活動団体が原稿を作成しています。

各団体のページでは、団体の活動紹介にはじまり、支援金をどのように活用し、どのような成果があったか、そして今後の活動の抱負について、各団体が記述しております。

この事例集を通じて、活動に携わる市民の方々の生き生きとした姿、社会や地域のために活動している方々の溢れるパワーをお伝えできれば幸いです。

※平成22年度からの「市民公益活動公募型支援事業 実施事業事例集」は、船橋市のホームページ（<http://www.city.funabashi.chiba.jp/index.html>）に掲載されておりますので、是非ご覧ください。

平成27年5月

船橋市 市民生活部 市民協働課

【市民公益活動公募型支援事業 平成26年度実施事業一覧】

事業立上型 1件【支援率：支援対象経費の80%以内 限度額：20万円】

No	団体名	事業名称	頁
1	船橋市援農クラブ	農業ボランティア事業	5

事業提案型 16件【支援率：支援対象経費の50%以内 限度額：100万円】

No	団体名	事業名称	頁
2	公益社団法人 船橋地域福祉・介護・医療推進機構	船橋地域福祉相談会「船橋福祉塾」	6
3	船橋ワーキングマザーの会	働く/働きたいママのための地域コミュニティ	7
4	NPO法人 シビルまちづくりステーション 船橋防災関連プロジェクトチーム	地震による防災（液状化等）の調査・提言、知識普及 および広報事業	8
5	丸山を元気にする会	丸山を元気にしよう！朝市・夕市の開催&丸山ひまわり 110番を探せ！！ハロウィンウォークラリーイベン ト開催	9
6	“伝えよう船橋”の会	船橋かるたによる、子供の健全育成を図る活動及び住み よい魅力あるまちづくり推進	10
7	船橋漁港の朝市委員会	みんなおいでよ！船橋漁港の朝市	11
8	坪井湿地を復活する会	坪井のヘイケボタル復活計画	12
9	船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会	船橋市障害者スポーツ・レクリエーションの普及・推進	13
10	NPO法人 うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋	知的障害者と家族等の権利擁護と成年後見制度の相談 と支援事業	14
11	NPO法人船橋ウォーキング・ソサイエティ	市民の為の各種ウォーキング体験会にて、健康増進活動 推進事業	15
12	千葉 桃の会	世代を超えてみんなで唱歌・童謡を歌おう	16
13	街に花と緑の会	前原西2丁目花と緑のまちづくり活動	17
14	三番瀬カレンダー制作実行委員会	三番瀬カレンダー制作	18
15	船橋英語連盟	船橋市が国際都市にふさわしい親善や交流を行える資 質のある市民を増やす。 船橋市民として英語を通して、国際感覚、外国人とのコ ミュニケーション力を身に着ける。	19
16	オアシス家族会	精神障害者を抱える家族に対する支援事業	20
17	特定非営利活動法人 千葉県中途失聴者・難聴者協会	文字を生かしてコミュニケーション「筆談を学ぼう」講 座	21

【市民公益公募型支援事業の概要】

市民の皆さんによる地域に役立つ取組みに市が必要な支援を行うといった「市民との協働によるまちづくり」があらゆる場面で展開されるよう、「船橋市市民公益活動公募型支援事業」を平成22年度より導入しています。

この制度は、市民活動団体から提案のあった事業について、その内容を審査し、公益性や社会貢献性の効果がある事業に対して、市が支援金を交付するものです。支援金の申請は「事業立上型」「事業提案型」の2種類で、それぞれ上限額と支援率を設定しています。「事業立上型」は、市民活動団体の設立後3年未満の団体が行う公益事業で、「事業提案型」は市民活動団体が主体となって行う公益事業か、市と市民活動団体が協働で行う事業が対象となります。

支援金の種別	支援率	限度額
事業立上型 設立から3年未満の市民活動団体が行う新規公益事業の実施に対し交付する支援金（交付は1回に限ります。）	支援対象経費の80%以内	20万円
事業提案型 市が市民活動団体から提案を受けた公益活動の事業費に対し交付する支援金（同一事業による継続は原則3年度を限度とします。） ※提案内容が特に公益性の高い事業であると認められたときには、支援率を80%とします。	支援対象経費の50%以内	100万円

対象となる事業は、支援金の交付により成果又は効果が期待できる事業として、平成26年4月1日から平成27年3月31日の期間内に着手かつ完了し、船橋市内で行われる地域課題の具体的な解決に向けて取り組む活動です。

申込みのあった事業の選定にあたっては、公募の市民委員を含む第三者で構成される「市民活動支援審査会」において、「公益性」「効果性」「適格性」「必要性」「新規性・アイディア性」「連携性・協働性」の観点に立った評価が行われます。

評価項目	審査事項
公益性	対象活動に持続性があり、広く市民の利益に貢献するものであること。
効果性	対象活動に対して支援金を交付することが、費用対効果の観点からみて適切であること。
適格性	団体の運営基盤が資金面、人員面において整っており、対象活動が団体の活動体制・推進能力に見合ったもので、実現可能な取組みであること。
必要性	社会的必要性の認められる活動で、市の公益課題の改善に資するものであること。
新規性・アイディア性	対象活動の目的の設定、実施方法に新たな着想や創意工夫があり、社会的に有用な取組みとして効果が期待できること。
連携性・協働性	民産学官等連携した取組みにより事業成果の相乗効果が見込まれること、または、市と協働する必要性、妥当性、課題解決の緊急性、重要性が高く、自立性が確保され、役割分担が適正に行われていること。

【平成26年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	1件	1件	1件	116,308円	93,046円
事業提案型支援金	18件	16件	16件	4,607,539円	2,263,272円
【合計】	19件	17件	17件	4,723,847円	2,356,318円

【平成22年度から平成26年度までののべ実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	24件	23件	23件	5,744,649円	3,650,797円
事業提案型支援金	113件	96件	92件	40,231,885円	19,267,429円
【合計】	137件	119件	115件	45,976,534円	22,918,226円

※制度導入からの5年間で68団体からの申請があり、このうち50団体に対して支援金を交付

【平成25年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	4件	3件	3件	767,312円	552,622円
事業提案型支援金	25件	20件	19件	5,700,969円	2,688,956円
【合計】	29件	23件	22件	6,468,281円	3,241,578円

※事業提案型で採択された20件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【平成24年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	6件	6件	6件	1,081,442円	739,701円
事業提案型支援金	28件	25件	24件	12,421,404円	5,841,783円
【合計】	34件	31件	30件	13,502,846円	6,581,484円

※事業提案型で採択された25件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【平成23年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	6件	6件	6件	1,779,826円	1,095,606円
事業提案型支援金	16件	15件	14件	8,584,428円	3,868,898円
【合計】	22件	21件	20件	10,364,254円	4,964,504円

※事業提案型で採択された15件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【平成22年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	7件	7件	7件	1,999,761円	1,169,822円
事業提案型支援金	26件	20件	19件	8,917,545円	4,604,520円
【合計】	33件	27件	26件	10,917,306円	5,774,342円

※事業提案型で採択された20件のうち、1件は支援金の交付を受けずに事業を実施。

農業ボランティア事業

【支援金確定額：93,046円 支援率：80%】

記入日：平成27年4月23日

■どのような活動をしている団体ですか？

① 援農作業

年間を通じ市内営農者を対象に野菜の出荷作業や除草、機械の取扱いなどの軽作業(ボランティア作業)を行っている。

② 自主耕作作業(野菜栽培技術向上等)

市内における遊休農地解消策として市事業への協力を図るとともに、福祉施設へ新鮮で安全な農産物の提供を行い、また、農作業の体験学習なども行うことで農業の楽しさ、理解等を深めていく。



【援農作業等実施状況】

■事業立上型支援金をどのように活用されましたか？

① 年間を通じ7軒の生産者に対し出荷作業や除草などの農業ボランティア作業を実施した。

② 遊休農地対策として、450坪の圃場にサツマイモやジャガイモ等の自主耕作作業を行い、市内福祉施設等による農作業体験や農作物の提供を実施した。



【市特別支援学校イモ掘り実施状況】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

① 活動も2年を過ぎ、さまざまなボランティア活動を行って来た中で、今年度はクラブ員メンバーも27名と増員した。

② 研修中の次期メンバーもおり、ますます活動の幅が大きくなっている。

③ 自主耕作作業や機械類取扱い研修を充実させること、また、市内福祉施設への協力等を行うことは、都市農業の維持や発展につながるものである。



【平成27年度通常総会実施状況】

■今後の活動の抱負について

今年度はクラブ員メンバーも27名と増え、さらに研修中の次期メンバーもおり、ますます活動の幅が大きくなっている。

受入農家も現在は8軒だが、今年度はさらに増やす予定でもある。

自主耕作作業や機械類取扱い研修等の充実、また、市内福祉施設、教育機関等への農産物の提供を通して市内農業の魅力を周知するとともに、さらなる経験を通して都市農業の維持や発展につながるものと確信している。

■問い合わせ先：代表 野口 廣之 (のぐち ひろゆき)
TEL：047-422-1127

船橋地域福祉相談会「船橋福祉塾」

【支援金確定額：275,429円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月19日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋地域における福祉・介護・医療の充実を目的とし、包括的なシステム構築実現に向けて活動しています。そのためには、医師を始めとする専門職のみならず、サービスを受ける側である地域住民をも含めた新たな関係（連携）が必要です。専門職がそれぞれの仕事を通じて得た知識と経験を有効に活用し、地域住民とともに新しいサービスシステムを創出し、広く普及させるべく活動を継続して行っています。

平成27年3月現在で、会員数は65人です。本機構の理念を実現するため、講演会・相談会等の開催、そして、連携を行うためのシステム作りを継続的に行っています。



【相談風景－1】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

平成26年度は「船橋福祉塾」と称する、無料公開相談事業を11回開催しました。生活習慣病、メンタルヘルス、子育て、認知症、後見制度、介護、歯科などについて市民の皆様の疑問に専門家がお答えするという内容です。この企画の一番の問題点は、どのようにして市民の皆様に周知して趣旨を理解していただくかという点でした。行政の広報は利用させて頂きましたが、それだけでは宣伝が不十分であり、毎回開催の都度チラシを作成し、保健センター、公民館、介護施設、医療機関等への配布が必要でした。そのため支援金は主に相談会会場費およびチラシ作成に活用させて頂きました。



【相談風景－2】

◆事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

過去4年間にわたり、地域住民に向けて公開講座・シンポジウムを開催してきましたが、平成25年度はレストランを借りて「生活習慣病防止のための食」というテーマで、人数を限定して市民参加型のシンポジウムを行い、好評を得ました。平成26年度はさらに一歩進めて、公開講座を開催したあとに無料公開の福祉・介護・医療相談会を開催しました。参加者は公開講座のテーマに関する質問や、平日頃悩んでいる様々な問題の相談を多数寄せて下さいました。当機構の会員には様々な職種 of 専門職があり、会員が相談を聞いて回答するので参加された方は皆様非常に満足されており、活動の目標は達成できたと感じています。



【シンポジウム風景】

■今後の活動の抱負について

平成27年度以降は、平成26年度に採択された市民協働課の船橋市市民公益活動公募型支援事業である「船橋地域福祉相談会」を、行政から新たに委託を受けてひまわりネットワークの事業の一部として行うことが決定しました。その他、独自主催の公開講演会を10回開催予定しています。また、公益財団法人勇美記念財団助成による「在宅緩和ケアに関するシンポジウム」を7月に開催予定です。その他、第4回ふなばし福祉まつり in イオンモール船橋に参画します。今後も相談会、公開講座、シンポジウムを通じて会員数をふやし、地域住民とともに福祉・介護・医療システムの構築を継続していく予定です。

■問い合わせ先：理事 鶴澤 龍一（うざわ りゅういち）

TEL：047-456-8040

E-mail：funabasi.fukusi.kikou@gmail.com

働く / 働きたいママのための地域コミュニティ

【支援金確定額：229,785 円 支援率： 50%】

記入日：平成 27 年 5 月 18 日

■どのような活動をしている団体ですか？

働く女性が、ママとして、職業人として、そして個人としてもイキイキと輝くことを目指します。地域の働くママを元気にし、子育て環境、両立就業環境の向上に寄与することを目的として活動しています。

- ・メインの支援層：育児休暇中～復帰後数年の働くママ（最も両立への不安や悩みが多い時期であるため）
- ・活動内容：①毎月1回のイベント（交流会、学習会など）開催による、直接対面機会の設定
②ブログ、SNSを活用した情報交換機会設定
③地域のイベント参加、子育て支援機関との連携など



【7月開催：パパ料理研究家の方の講座はパパの子育て参画意識に語りかける内容】

■事業立上型支援金をどのように活用されましたか？

毎月の定例イベントなどの開催のための費用（会場費、講師料など）

- 4/5（土）「スクールカウンセラーによる家族コミュニケーション講座」（9）
- 5/17（土）「注目の刺さない小児はり～スプーンマッサージ講座」（12）
- 6/7（土）「ベビー・キッズとママのための歯のケア講座」（15）
- 7/6（土）「パパが料理したくなるツボ講座」（6）
- 7/31（土）「保育園申し込み準備勉強会」（13）
- 8/30（土）「家族コミュニケーション講座Ⅱ」（10）
- 9/23（土）「働きながら育てる☆たくましい心育て」（35）
- 10/8（水）、22（水）「育休ママ向けワークショップ」（2回合計15）
- 10/19（日）「子育て応援メッセ in 船橋」 ①ブース展示②ワークショップ
「共働き家族のリアルライフ紹介」（10）
- 11/15（土）「ママのヨガ体験&ワーママ交流会」（13）
- 12/13（土）「働くママ&パパのおしゃべり忘年会@親子カフェ」（15）
- 1/31（土）「復職支援講座☆共働き家庭のリアルライフ&両立コツ」（20）
- 2/28（土）「家事も仕事も私スタイル思考の整理の仕方」（14）
- 3/14（土）「ワーママコーディネーター実践講座」（10）
- 3/19（木）「復職直前交流会」（10）



【1月「復職支援講座」夫婦そろっての参加者が半数。パパからの質問も活発。新生活の予測、夫婦での分担を話し合ってもらいました】

■事業立上型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- ① 会員数増加（80名以上の新規会員登録）のための広報費用が捻出できた
- ② 人気講師の召喚（家族・子育ての専門家、夫婦関係コーチなど）、参加費用を低額に設定することができ、多くの参加者を得ることができた。（年間参加者数のべ207組）

■今後の活動の抱負について

【次年度の重点項目】

- 1). パートナーへの働きかけ
「両立成功のキーポイント」であるパートナーとの連携をテーマとしたイベントを実施する。
（産休パパママ講座、保活準備講座などを検討）
- 2). ママのキャリア形成支援
職場での貢献度向上や“小1の壁”を迎えるときの働き方などについて情報提供、検討の機会となるイベントを実施する。
- 3). 協賛、後援企業などの開拓

■問い合わせ先：代表 高橋 奈緒子（たかはし なをこ）

TEL：080-3485-6019 E-mail: fwmama@gmail.com

<NPO法人ビルまちづくりステーション船橋防災関連プロジェクトチーム>【事業提案型・1年目】

地震による防災（液状化等）の調査・提言、知識普及および広報事業

【支援金確定額：49,762円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月25日

■どのような活動をしている団体ですか？

1. 市民参加による市民・行政との協働によるまちづくりとNPOとの連携。
2. 緑化・芝生化活動：校庭（小・中学校）、園庭（幼稚園等）の芝生化を推進。
3. 教育・啓発活動：まちづくりを中心とした講習会開催による教育・啓発を行っています。
4. 防災および被災地支援活動
 - ・2011年3月に発生した東日本大震災への被災地支援等。
 - ・液状化被害の減災を目的とし液状化対策プロジェクトを立ち上げ減災に向けた自治体・地域住民への情報提供、現地技術調査等。



【中央公民館事業 液状化被害を学ぶ】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

- ① 昨年度実施の地震防災の液状化に関する基礎的知識の普及の成果に基づき、今年度は船橋市の「液状化被災の実態調査」を実施しました。調査は船橋市の危機管理課をはじめ道路管理課、都市計画課、下水道河川管理課などの協力により報告書として取りまとめました。
- ② 地震防災セミナーの開催：中央公民館で開催、危機管理課との共催で「船橋市における防災計画とその実践」や「事態調査結果の報告」等を行いました。
- ③ 上記実態調査結果を小冊子として取りまとめ、市民の方々に広く広報。



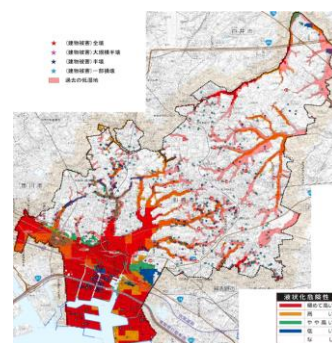
【実態調査セミナー
船橋の液状化被害はこうだった】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

家屋の被災状況、道路・上下水道・ガスなどのライフラインの被災状況等を調べました。

特に、家屋の被災は湾岸部の埋立地だけでなく、内陸部においても同数の被害がありました。

この結果を船橋市の地図上（右図）に表し、過去の地形、地盤、現在のハザードマップなどと比較することにより新たなことが解りました。



【ハザードマップと旧地形】

■今後の活動の抱負について

今後、この成果を踏まえて東京湾岸沿いのより広範囲の地域に生かすとともに、新たに土砂災害の問題に取り組み、自然災害に関する防災・減災に取り組んでいきたいと考えています。

■問い合わせ先：代表 花村 義久（はなむら よしひさ）

TEL：047-439-2082

E-mail：y-hanamura@nifty.com

丸山を元気にしよう！

朝市・夕市の開催&丸山ひまわり 110 番を探せ！！ハロウィンウォークイベント開催

【支援金確定額：183,163 円 支援率：50%】

記入日：平成 27 年 5 月 1 日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋市丸山地域を中心にした個人事業主や企業、また有志による住人により構成された団体で、丸山地域をよりすばらしい活力ある地域にしようと、さまざまな企画を通して活動する団体です。



【活動の写真①～朝市夕市】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

今回の企画では主に二つの事業を通して支援金を活用させていただきました。

1. 衰退ぎみの商店街にかわる新たな場として朝市夕市の開催。げんき会の個人商店などの出店を 1 箇所を集め、丸山の住人たちとの新たな交流の場を設ける活動を約月に 1 度開催。
2. 子供たちにひまわり 110 番の家をウォークラリーでまわり、地域を知ってもらうと同時に防犯意識を持ってもらう活動を、ハロウィンパーティ（仮装をして）と同時開催。



【活動の写真②～朝市夕市】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

調整区域の開発で進む新しい住人と旧来からの住人とが暮らし、世帯数を多く抱える丸山地域では、「地域」という意識の希薄化を警戒していました。それは治安にも影響することであり、私たち丸山に暮らす住民が住民の手で解決していく課題でもありました。今回の事業を通して子供からお年寄りまで、丸山の顔が見える形で絆が形成されつつあるのではないかと思います。朝市夕市、110 番ハロウィン、事業を重ねるごとに認知され、参加者も年々増加し、今では丸山のイベントとして定着しつつあります。



【活動の写真③～ハロウィン】

■今後の活動の抱負について

丸山を元気にする会としての今回の活動は今後も継続していきたいと思っています。新たな事業として、「家庭から地域まで」をテーマに取り組んでいきたいと思っています。「もっと地域をよく知ってもらう（農家との連携）まるやまマルシェ」「子供たちの学習意欲の向上 サイエンスショー」「健康に歳を取ろう まるやま体力診断」など企画しています。

■問い合わせ先： 新田 ひとみ (にった ひとみ) / 阿部 直 (あべ ただし)

TEL : 047-430-6014

<http://www.maruyama-genki.com/> お問い合わせフォーム有

船橋かるたによる、子供の健全育成を図る活動及び住みよい魅力あるまちづくり推進

【支援金確定額：82,160円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月20日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋をよく知ること、それが地域への愛着や関心に発展します。その重要な入り口として、船橋の歴史・文化財・特産物・産業・自然などを詠んだオリジナルの『船橋かるた』を使って、楽しみながら子供達に船橋の文化や歴史を継承するとともに、児童の健全育成を図ることを目的としています。

また、かるたウォーキングなどを開催することで、世代間交流や地域交流を図ることができ、住みよいまちづくりにも貢献します。



【松が丘公民館ハッピーサタディ】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

支援金は主にかるた製作費及びかるた会案内等に使用しました。

- ① 『船橋かるた』100セットの製作費用
- ② 「東部版かるた」のデザイン費用及び印刷費
- ③ 大型かるたのコピー制作費
- ④ かるた会の案内ポスター・チラシ制作費
- ⑤ かるたウォーキングの資料作成費



【宮本公民館まつり】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

配布先の小学校も8校に広がり有効に活用されています。

海老が作公民館・宮本公民館でのかるた会実施を継続し、今年新たに松が丘公民館でハッピーサタディを担当しました。小学生にぬり絵も含めたプログラムで、船橋について学んでもらうことができました。児童ホームでも、宮本児童ホーム・海神児童ホームで定期的にかるた会を開催し、喜ばれています。

本町・宮本のかるたウォーキングを実施したことで、参加者に船橋を身近に感じてもらうことができました。

ケーブルテレビの番組作りに参加させてもらうことで、かるたの普及活動にはずみがつきました。



【かるた原画展】

■今後の活動の抱負について

子供の健全育成と住みよいまちづくりの推進活動を、『船橋かるた』の普及に合せて実施していきます。

- ① 小学校の「郷土船橋」授業での『船橋かるた』の補助教材化の促進。
- ② 各児童ホーム向けの「地域かるた」の製作。
- ③ 市内各地域でかるたウォーキングを行い、世代間交流と地域交流を促進する。
- ④ 地域コミュニティ（ケーブルテレビなど）と連携し、市民への普及を図る。

■問い合わせ先：代表 鈴木 久美子（すずき くみこ）

TEL：047-435-2243

E-mail：suzuki-kmk@ee.e-mansion.com

みんなおいでよ！船橋漁港の朝市

【支援金確定額：80,020円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月27日

■どのような活動をしている団体ですか？

「船橋漁港で水揚げされた水産物はどこへ行ったら買えるの？」という声にお応えすべく、船橋漁港（湊町3丁目）にて毎月第3土曜日午前中に朝市を開催しております。

船橋漁港水揚げの水産物（鮮魚、貝類、海苔）、船橋産の農作物を生産者の方が直売、それらを使った佃煮などの加工品、石窯でその場で焼くピッツァなどの販売を行っています。

船橋漁港の朝市は2010年8月に第1回を開催し毎月1度の開催を継続しております。



【船橋漁港の朝市の様子】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

「お魚さばき方教室」の講師謝金、「船橋漁港の朝市瓦版」と銘打ったニュースレターの印刷費に充てました。

ニュースレターを毎回発行することで、船橋漁港の朝市をさらにアピールできるツールができました。ニュースレターやWeb ページなど、デジタル・アナログを併用した広報ツールを活用することで、今後も継続してアピールしていきます。



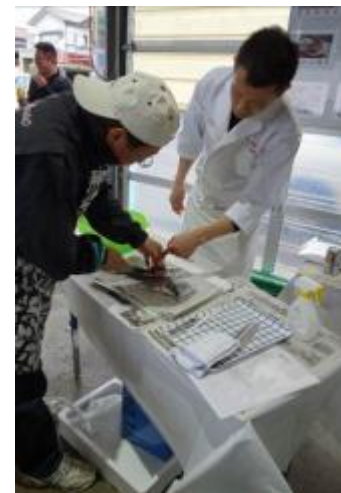
【漁港の朝市でも野菜が手に入ります！】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

毎回の朝市には300～400名のお客様がお見えになっております。またお客様に鮮魚を購入いただいてさばき方を知っていただく「お魚のさばき方教室」も毎回ご好評をいただいております。

本事業による成果の1つ目は、毎回たくさんのお客様に船橋産品に触れていただける機会ができています。2つ目は、船橋市主催の「ふなばし朝市」に漁港の朝市メンバーが出店させていただけるようになったことで、場所は違えども船橋産品のアピールができるようになったことです。

これらの成果は朝市を数回開催しただけでは得られないものです。我々は継続できるペースで朝市を開催・運営することを強みに持っておりますので、今後もこの強みを活かしていきます。



【お魚さばき方教室、好評です！】

■今後の活動の抱負について

今後も「毎月第3土曜日に」、「船橋漁港で」、「船橋産のものが手に入る」朝市を継続開催します。市民の方に地元産品をアピールするためには朝市を継続することが必要です。ニュースレターやWeb媒体を活用できるPRの方法を模索することで集客につなげます。集客ができれば、市民の方にさらに船橋漁港をアピールすることができます。

「船橋漁港から船橋全体へ」。船橋漁港から船橋の1次産業をアピールすることで船橋全体の地域振興の活性を目指します。

■問い合わせ先：代表 内海 金太郎（うちうみ きんたろう）

TEL：080-6594-2539

E-mail：kintaro@kane8suisan.com

坪井のヘイケボタル復活計画

【支援金確定額：87,359円 支援率：50%】

記入日：平成27年4月7日

■どのような活動をしている団体ですか？

新しい街の住人に街への愛着を持ってもらえるよう坪井近隣公園内の調整池に坪井の湿地を復活し、そのシンボルとして坪井原生のヘイケボタルの自然発生に取り組んでいる。

主な事業としては、市立坪井小、県立船橋芝山高校、東邦大学里山応援隊、日本大学理工学部の指導、協力によりホタル幼虫の育成、湿地整備を進めている。

具体的活動はホタル講演会の開催、湿地の草刈りなどの整備、水質検査、春の幼虫放流会、他にPR活動として、坪井小PTA機関紙の取材対応、湿地にポスター掲示、昨年度に引き続いて缶バッジの作成、配布をしています。



【幼虫の放流会】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

- ・飼育水槽の維持・ポンプ購入
- ・湿地整備・農具、遮光ネット、支柱購入
- ・講演会・講師謝礼、実験機材購入
- ・PR活動・キャラクター制作、缶バッジ製作



【活動している湿地の状況】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- ・飼育水槽の中ではあるが、その中で育った坪井原生のヘイケボタルが見られたことで、住民のホタルと自然環境に対する関心が高まった。
- ・活動を通して、周辺の小学校、高校、大学と交流ができた。
- ・地元のみし学園自治会の協力が得られるようになった。



【ホタル講演会】

■今後の活動の抱負について

- ・平成27年度も原生ホタルの採集、坪井近隣公園内の湿地整備、ホタル講演会の開催などを通じて、活動の盛り上げとホタルの自然発生を実現させたい。
- ・前年まで原生ホタルを採取していた場所が宅地になったので、近隣で新たに生息地を探す。
- ・湿地整備の活動により、坪井近隣公園内調整池の水生生物に対する環境を改善したい。

■問い合わせ先：代表 江口 章（えぐち あきら）

TEL：047-456-7551 E-mail:mirukun610@nifty.com

船橋市障害者スポーツ・レクリエーションの普及・推進

【支援金確定額：222,487円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月24日

■どのような活動をしている団体ですか？

障害者、高齢者等のスポーツ・レクリエーション及び文化等の振興を図ることにより、障害者等の社会参加の促進と健康増進に寄与することを目的に活動しています。

① スポーツ教室の開催

- ・薬田台教室（薬田台公民館 月4回15時～17時30分
種目：バドミントン、スポーツ吹矢、卓球、ダーツ等
- ・前原教室（前原中学校） 月4回19時～21時
種目：太極拳、ジャズ体操、バドミントン、デッキゲーム等
- ・市民大学校、身障者センター等でも障害者スポーツ教室を開催。

② 千葉県障害者スポーツ大会等の協力

障害者アーチェリー競技大会の運営協力をしています。

③ 船橋市障害者スポーツ交流フェスタの開催

広く参加者を募り、障害者と健常者のスポーツ交流を実施しています。

④ 障害者スポーツボランティアの実施

スポーツ吹矢指導、卓球指導、アーチェリー矢取りボランティアの他、市民まつり、福祉まつり、子どもまつり等のイベントに協力しています。

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

- ①スポーツ教室、障害者スポーツ交流フェスタ等のPRチラシ作成
 - ②船橋障害者スポ・レク協会だよりの発行と郵送代
 - ③スポーツ教室講師謝礼、障害者スポーツ用具借入費用
- 概ね以上に活用いたしました。スポーツ教室は参加費を徴収しています。

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

スポーツ教室参加者は約600名。障害者と健常者が一緒に楽しみ、スポーツを通じた交流が深まりました。26年度活動実績は、障害者施設訪問指導(7回)、精神障害者卓球指導(24回)、身障者アーチェリー矢取り(48回)、知的障害者ソフトボール交流試合(1回)、福祉施設訪問(4回)等で障害者スポーツの普及・推進に努めました。(延べボランティア数は297名)。船橋市障害者スポーツ交流フェスタは、ボッチャ講習、吹矢交流大会、卓球交流大会を実施しました。

船橋市バドミントン初心者大会優勝、スポーツ吹矢千葉県大会第3位、全国障害者スポーツ吹矢大会にも出場、また、第14回全国障害者スポーツ大会アーチェリー競技(長崎県)千葉県代表に船橋市の選手が出場。総じて船橋市の障害者スポーツの普及に役立ちました。

■今後の活動の抱負について

当協会は、市内のスポーツ・レクリエーション団体、障害者団体、スポーツ指導者等と協力し、障害者、健常者と一緒の「障害者スポーツクラブ」を設立し、その運営に取り組みます。2020年東京パラリンピック目指して、船橋市出身の代表選手が選ばれることを夢見ています。



【スポーツ吹矢教室は月2回開催】



【交流フェスタ・ボッチャ体験】



【アーチェリー競技運営に協力】

■問い合わせ先：会長 高橋 久吉（たかはし きゅうきち）

TEL：090-4226-9623

E-mail：pi090105-2986@tbz.t-com.ne.jp

知的障害者と家族等の権利擁護と成年後見制度の相談と支援事業

【支援金確定額：200,000 円 支援率：44.5 %】

記入日：平成 27 年 4 月 14 日

■どのような活動をしている団体ですか？

知的障害などで判断力が十分でない人々とその家族、又、支援者の権利とその人らしい生活を守るための支援事業

- 後見制度利用相談と支援
- 困りごと相談と啓発活動
- 権利擁護活動とそれに伴う講演
- 「親心の記録」(※)の冊子及びCDの作成と普及
- 「親心の記録」(※)についての説明会開催
- 顧問弁護士による個別相談会開催

※正式名：「親なき後」の子（知的障害者）の幸せな人生を守る親心の記録



【岩田弁護士による成年後見制度勉強会】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

- 成年後見制度のご相談を受け、ご案内をしました。法人後見として2件の方を支援しています。
- 知的障害ではない、精神障害の方のご相談にも応じ、出向くこともありました。啓発活動の一環として、「手をつなぐフェスティバル」を開催、140名余参加。
- 権利擁護については、「袖ヶ浦福祉センターの事件から考える」と題して講演と対談の会を開催しました。
- 親心の記録が「船橋よみうり」に掲載され、お申し込みが増え増刷、またCD化してお分けしました。手作りです。
- 顧問弁護士、個別相談会や講演の報酬



【「親心の記録」と「CD版親心の記録」】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- 顧問弁護士の相談は、成年後見制度活用に結びつき、トラブル解決もスムーズに進みました。
- 「手をつなぐフェスティバル」は引きこもりがちな障害のある人や家族と支援者が、一般市民とともに楽しみ、交流の場となりました。寄附などの品物を景品にしたビンゴゲームも盛り上がりました。電話相談は夜にかかってくる。
- 袖ヶ浦福祉センター事件を他人事とせず、権利侵害と擁護に関心を持たせたと参加者は感動されました。
- 「親心の記録」はゆっくりながら浸透しています。CD化したのでさらに普及に努めます。
- うえるかむ通信を6回発行しました。漫画が好評です。



【ホームページを開設しました。ぜひご覧ください。

<http://welcome-funabashi.org/>】

■今後の活動の抱負について

- 気軽に成年後見や権利擁護の相談ができるような雰囲気と体制を作ります。
- フェスティバルはできないものの、公民館の講堂を借りて集いの会を計画しています。
- 顧問弁護士による相談会は続け、必要な支援をしていきます。
- 「親心の記録」は、CD化で利用しやすくなるのではないかと思います。パソコンをしない方には冊子のPRもしていきます。
- 成年後見制度、権利擁護などについて勉強会を行い、うえるかむ通信を発行します。

■問い合わせ先：代表 赤津 保子（あかつ やすこ）
TEL：携帯 090-1217-3003 事務所 047-710-7045

E-mail: yfa701395816@nifty.com
E-mail: qqxt3s29n@canvas.ocn.ne.jp

市民の為の各種ウォーキング体験会にて、健康増進活動推進事業

【支援金確定額：100,000円 支援率：49.1%】

記入日：平成27年3月24日

■どのような活動をしている団体ですか？

毎月の定例会で、仲間づくりと、楽しく健康維持増進に役立つ、効果のあるウォーキングの提案と実践をしています。

脚・腰に不安がある人からフィットネスまで全ての人々のために「2本のポールを使うウォーキング」、いつまでも若々しい身体づくりを目指す「美・姿勢ウォーキング」の2つがあります。どちらも数名の有資格者が個人にあった無理のないウォーキング法をコーチし、スタッフとともに近隣住民の健康づくりを支援しています。

また、健康まつりの体験会等で運動習慣のきっかけづくり、市民大学校等の要請を受けてウォーキング講座の講師を派遣しています。

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

「2本のポールを使うウォーキング」で街中を格好良く歩いて健康ウォーキングのイメージ作りと船橋の良さを知る企画を2回しました。3回の街歩きで合計78名動員。街歩きに必要な小旗や救急薬品等の消耗品購入。マップや宣伝の印刷費に充当。健康なシニアは地域を元気に明るくします。そこでシニア向けのポールウォーキング教室を11回継続開催し参加者合計104名。ポールウォーキングの書籍や身長計を購入。効果等の理解と数値を出して運動継続習慣づくりに役立てました。東武百貨店共催のポールウォーキング体験会を3回開催。26年度対象事業総合計24回、参加者総合計321名になりました。

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- ①近い将来訪れる日常生活での2本のポールを使うウォーキング。街中で安全に歩くマナーを伝えることができた。(交差点での信号待ち、人ごみの中の歩き方)
- ②手作りの案内マップを作成。各所で説明。船橋の歴史がよくわかったと参加者から大好評であった。
- ③ランチを共にしてウォーカー同士の交流と地場の特産物ランチで「ホンビノス・小松菜・人参」を紹介。初めて食べた人もいて、船橋の産業紹介に役かうことができた。
- ④ウォーキングの基礎(靴の履き方リュックの背負い方等)を伝え、疲労減ウォーキングで感謝された。

■今後の活動の抱負について

2025年問題に備え点(FWS定例会)と同時に面での底辺力をアップ。社会を支える支援体制作りを積極的に応援したいと考えている。例えば、町会等のウォーキングクラブへ講師派遣で支援活動と同時に、その町内での指導者育成を図りそれらの人を地域の健康リーダーとして地域全体の意識をアップさせる。

東武百貨店とコラボ 東武百貨店屋上でポールを使うウォーキング開催予定。交通便の良い会場を借り、周辺住民へ運動継続のための効果づくりを支援する。

将来は トラベル会社などにイベント企画を持ち込み、楽しみながらの健康増進と、経済活性化を狙う。健伸行田幼稚園母の会と共催ウォーキングイベントを継続。団塊ジュニアコーチを育て次世代につなぐ。



【初めてホンビノスを食べた人が、その柔らかさと味の良さにびっくり。】



【ポールで楽しく古刹と名木巡り】



【船橋の歴史をたどって街歩き】

■問い合わせ先：代表理事 佐藤 ヒロ子 (さとう ひろこ)

TEL：047-438-8818 E-mail：npofws@yahoo.co.jp

世代を超えてみんなで唱歌・童謡を歌おう

【支援金確定額：243,486円 支援率：50%】

記入日：平成27年5月11日

■どのような活動をしている団体ですか？

おなかから大きな声を出して歌うことは、とても気持ちが良く、気分もスッキリして元気になります。歌うことで一人でも多くの市民の皆さんが体も心も元気でいて欲しいと思って活動しています。また、季節や行事ごとに心に思い出される唱歌・童謡を子供から大人まで一緒に歌うことで、歌い継がれてきた日本人の心を次の世代にもつなげていきたいと思っています。毎月1回市内公民館で行う「みんなで歌う唱歌・童謡講座」では、声がよく出るようにストレッチや発声練習の指導も受けられます。また、年に一度大きなコンサートを行い、舞台上で歌う楽しさも味わってもらいます。



【歌おうふなばし！！
歌の花束コンサート】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

26年度は「みんなで歌う唱歌・童謡講座」の他に、三咲児童ホームで親子向けに「聞いて歌って楽しいみんなのコンサート」を、12月に勤労市民センターホールで第3回「歌おうふなばし！！歌の花束コンサート」を実施しました。親子コンサートは無料、歌の花束コンサートもなるべく多くの市民が参加しやすいように500円という金額におさえられたのは、支援金のおかげです。

支援金はコンサート会場費、歌集、プログラム、チラシの制作費、講師への謝礼の補助金として使わせていただきました。



【親子コンサート】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

気軽に参加できる「唱歌・童謡講座」は、それぞれの公民館の所在地周辺に固定の参加者もでき、家に閉じこもらずに外に出る機会、声を出す機会との認識を持ってもらえたようです。また、毎月継続している参加者は、3月に日比谷公会堂で実施された被災地支援コンサートに参加し、歌うことで自分だけではなく周りも元気に出来るという貴重な体験をしました。

「歌の花束コンサート」では知的・発達障害を持つ人達の支援をしている「NPO法人うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋」さんに協賛してもらい、来場した一般市民に障害を持つ人達への理解を呼びかけることが出来ました。



【みんなで歌う唱歌・童謡講座】

■今後の活動の抱負について

歌うことを純粋に楽しむ気持ちを4年間軸に据えて活動してきました。自分の住居近くの公民館で開催されるのを待っていてくださる参加者も市内各地にいて、これからも一緒に歌って元気になる、気軽に参加できる会として活動していきたいと思えます。

また、引き続き児童ホームでの親子コンサート、他団体とのコンサートの共催を計画し、世代や生活環境など様々な違いを超えた歌の交流を行っていききたいと思えます。

■問い合わせ先：代表 小林 里美（こばやし さとみ）

TEL：047-449-5540

E-mail: chibamomonokai@gmail.com

前原西2丁目花と緑のまちづくり活動

【支援金確定額：64,730円 支援率：50%】

記入日：平成27年2月22日

■どのような活動をしている団体ですか？

前原西2丁目内を通る県道69号旧御成街道の歩道内の緑地帯の整備として花・樹木を植栽・手入れ、ごみ清掃の活動、また町の美化環境を良くする。通る人の心をなごますように始めてから5年になります。

(会の発足は平成22年5月です)



【清掃活動】

■事業立上型支援金をどのように活用されましたか？

花・苗・肥料・杭・ロープ・立札・安全ベスト・ポスター・チラシ・会報の発行。



【杭打ち・ロープ張り】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

毎月第2日曜日を活動の日と決め花苗植栽・ごみ清掃、植栽の手入れ等をしているので、あき缶・ビンのポイ捨てが少なくなりました。

今年度は地元の子供会のお母さん方に参加して頂き活動しています。



【子供会参加】

■今後の活動の抱負について

花・樹の緑でまちおこし活動、美化活動、防犯防災・交通安全で町全体が明るく美しいまちづくりに地域ぐるみで、また笑顔で明るく挨拶のあるまちそして地域の絆で結ぶ前原のまちづくりに。

■問い合わせ先：代表 堀川 健児（ほりかわ けんじ）
TEL：047-473-0694

三番瀬カレンダー制作

【支援金確定額：196,917円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

三番瀬は、船橋市・習志野市・市川市・浦安市に囲まれた海、東京湾の最奥に位置しています。広範囲に埋め立てられましたが、残っている干潟・浅海域には今も魚や貝が育ち、これをとる漁業、海苔養殖などが続けられています。季節に応じて多くの種類の渡り鳥もやって来ます。このような海域が大都市に隣接して存在している事は全国的に注目されています。

この三番瀬の景色、鳥、魚、花等自然の姿や漁業の現場、遊びの様子、そして三番瀬に関わる文化財などの写真を月ごとのカレンダーの形式で編集し、船橋市立小学校や公民館等に寄贈し続けて来ました。経費とすべく一部は書店等で販売もします。



【2015年カレンダー(表紙・夏の富士山)】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

支援金は2015年カレンダー「2015三番瀬で会いましょう」制作：編集、印刷費用の一部に充てました。見開きA3版(上写真A4・下カレンダーA4毎月別)で、これを一昨年・昨年と同様に市立小学校全級、公民館、児童施設等に寄贈させていただく事ができました。

また、拡大コピー作成費用の一部としても活用させていただき、船橋市役所1階ロビー、船橋本町通り商店会展示場で「拡大コピー写真展」を催す事ができました。船橋市役所では他の写真(鳥、漁業など)や生きた魚・カニ等も見いただき、カレンダーは導入役として関心を持って見ていただきました。



【9月カレンダー拡大版等写真展 船橋市役所1階で来庁者に見ていただきました】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

3年間ご支援を継続していただいたお陰で小学校全学級へのカレンダー寄贈を継続できたこと自体が大変大きい成果であったと言えます。「船橋市の目の前かけがえのない自然の環境が今もある」という情報を子どもたちが日常生活の中で目にする事ができました。また、公民館等でカレンダーを見た方が展示について実行委員会に連絡をくださるようになった事など、公益活動として市民の方々にも認めていただく事ができたのではないかと考えます。3年間のなかで「事業としての自立」への道筋を作ろうと図り、事業の趣旨をご理解くださる企業、個人のご協力も少しずつですが増えて来ています。



【各月のカレンダー拡大版 2015年のカレンダー写真はこの時が初披露でした】

■今後の活動の抱負について

カレンダーの制作、こども達への情報発信のため小学校中心に寄贈、一般市民の方に向けての写真展開催という一連の活動は、実行委員会の基本的な活動として継続したいと考えております。

カレンダー制作は7年間継続しており、資料として見ることもできるようになったと思われまので、今後は拡大パネルの展示の場を拡げることも重視したいと思います。3年の間にその活動まで着手出来なかった点は残念ですが、いただいたご支援の積み重ねを今後の活動に十分に活かして行く事ができると考えております。3年間ありがとうございました。

■問い合わせ先：代表 田原 悦子 (たはら えつこ)

TEL：090-2457-7102

E-mail: et-higashihunabashi@mild.ocn.ne.jp

<船橋英語連盟>

【事業提案型・3年目】

船橋市が国際都市にふさわしい親善や交流を行える資質のある市民を増やす。
船橋市民として英語を通して国際感覚、外国人とのコミュニケーション力を身につける。

【支援金確定額：74,735円 支援率：50%】

記入日：平成27年1月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

市内で活動している4つの英語学習クラブを主体に、他8協力英語クラブの連盟である。各クラブが協力して、国際交流や外国人との親善を目的とした盛大な行事を実施している。行事を通して、各クラブの会員の英語能力及び外国人とのコミュニケーション力向上を図っている。また、市民に開かれた行事を提供することにより、船橋市民の方々が英語学習への関心や国際交流に興味を持つように働きかけている。26年度は5月にフィリピン料理会、11月に第29回英語フェスティバルを開催した。5年後の東京オリンピックを見据えて「おもてなし」について参加市民を巻き込みながら一緒に学んだ。



【第29回英語フェスティバル】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

英語料理会では、フィリピン人講師の招致の他、市内在住外国人数人と一般市民や英語学習者が料理を通して互いの食生活について情報交換ができ、市内在住外国人の参加費を無料にすることができた。

英語フェスティバルでは、「外国人が求めるおもてなし」をテーマにした「基調講演」を行える英語力のある外国人ゲストを招致するため、色々な国からゲストを迎え交流するために市の支援金を充てることができた。また、行事の中で学習する上で必要な資料代がかかるが、参加し易い費用にすることができた。



【おもてなしについて英会話】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

料理会では、調理後の試食会を講師や他のフィリピンの方とコミュニケーションを取りながら行った。日本との食生活の違いについての会話、質疑応答、フィリピンの歌を聞くなど、文化交流もできた。会員他参加の市民にも好評だった。

英語フェスティバルではテーマを「おもてなし」とすることで、主体的に参加者が熱心に討論することができた。在住外国人のスピーチから、各国のおもてなしを学び、日本のおもてなし精神の素晴らしさも再認識した会になった。各国の民族衣装を身につけて参加したり、英語落語寄席コーナーを持ち、文化の交流も盛大であった。



【フィリピン料理会】

■今後の活動の抱負について

3月に今年度の最後の行事「英語落語寄席」を行う。英語と落語に興味がある市民に毎回好評である。日本の娯楽文化の落語の楽しさを広め、外国人との交流をする落語寄席の企画は27年度も継続していく予定。英語学習を通して国際交流を行うフェスティバルは10月を予定。好評であったテーマ「おもてなし」を継続して学べる企画を含め、魅力あるイベントを行いたい。

今後も市民の方が、英語学習を通して国際交流に興味を持つきっかけとなるような行事を企画していく。市民の方がその後、英語学習を継続していけるよう、適切な助言を行えるようにしていきたい。

■問い合わせ先：理事長 長濱 美知子（ながはま みちこ）

TEL：047-423-1220

E-mail：jeans_n@hotmail.com

精神障害者を抱える家族に対する支援事業

【支援金確定額：121,950円 支援率：44.88%】

記入日：平成27年3月23日

■どのような活動をしている団体ですか？

精神障害者を抱える家族が、悩みを分かち合いながら、さまざまな問題を解決したいと2003年9月に結成されました。当事者を支え、回復につなげるためには、まず「家族が元気になろう」を目標としています。月3回の談話会（悩み、困り事の相談）及び、講師を招いての出前講座（勉強会）をしています。また、このような家族会がある事を知ってもらう目的で、皆さんと一緒に楽しめるチャリティコンサートも行っています。会場ロビーにて、会の活動の展示及び、精神障害者の作業所で作っている作品の販売をしています。



【チャリティコンサート①】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

常にストレスをかかえている家族、談話会や出前講座に出席したくても出席できない家族のために（理由：当事者の不安が強く一人で家に居られない等）情報源としてのお知らせ（年4回）の印刷・発送費の補助、出前講座の講師への謝礼の補助、チャリティコンサートの会場使用料及び出演者への謝礼の補助、26年度は、福祉関係団体、他の家族会の方々に広く案内をして、東部公民館講堂で講演会（出前講座）を開催しました。その時の会場使用料、講師への謝礼の補助として活用しました。



【チャリティコンサート②】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

チャリティコンサートでは、毎回200名以上の方に来場いただき（家族会以外の一般の方は150名ほど）、家族会の存在を理解及びPRが出来ていると思います。コンサート、出前講座のチラシを見た方から問い合わせがあり、見学、入会に繋がった方もいます。常にストレスをかかえている家族に対しては、悩みや困り事の相談を受け、思いを共有する、お知らせでの情報発信することで、支援が出来ていると思います。（思いを共有することで心が軽くなった、情報を得ることで支援機関に繋がった、一歩前に進めた、悩んでいるのは自分一人ではない、仲間がいる等の声が届いています）



【出前講座】

■今後の活動の抱負について

周りから孤立しがちな家族、常にストレスを抱えている家族の悩みや、困り事の相談、思いの共有、出前講座を通して、少しでも問題を解決できるよう、「家族が元気」になれるように、また精神障害者を抱える家族のために家族会がある事を知っていただきたいと思っています。26年度には、保健所、他の家族会と協力して、家族による家族学習会を開催しました。27年度以降も続けていき、地域で家族や当事者が安心して普通に生活できるようになることを、理解していただけるよう、努力していきたいと思っています。

■問い合わせ先：オアシス家族会

TEL：080-5420-0843（9:00～17:00）※担当者がご対応いたします

文字を生かしてコミュニケーション「筆談を学ぼう」講座

【支援金確定額：51,289円 支援率：50%】

記入日：平成27年3月11日

■どのような活動をしている団体ですか？

人生途上で、失聴した人や難聴になった人たちの福祉を目指し活動している団体です。特に音声会話が成り立たなくなった喪失感から、心身共に孤立しがちな中途失聴者や難聴者にコミュニケーション方法の獲得を促す月例会や、社会の理解を求める啓蒙活動を行っています。また、コミュニケーションの支援用具である筆記ボードの作製や、聞こえのシンボルマークの普及にも力を入れています。

更に、要約筆記者の全国組織「全国要約筆記問題研究会 千葉支部」と共に、文字での情報提供などの取り組みを協働で展開し、聞こえの支援活動も行っています。



【講座の様子】

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

3年目を迎えた当事業では、2年間の経験を生かし新たに地域への理解を求めた「筆談を学ぼう」を2回の連続講座で実施しました。高齢者の集まるところに文字情報の配慮が必要であることに加え、身近に暮らす人たちが聞こえにくいことを理解し、日常的に書くことに慣れる環境づくりも大事なことと考えました。「筆談」は誰でもできると思われがちですが、コミュニケーションの手段として「書く」には知識と技術を要します。対象を介護にかかわる人、病院で患者に接する人、傾聴など生活場面で聞こえにくい人に出会うことの多い福祉分野に携わる人を中心に案内とチラシを作成し呼びかけました。



【講師の話に集中】

■事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

まず呼びかけに対する反響の多さに驚きました。講座の内容から定員を30人としましたが、その倍以上の申込があり、受講者決定に戸惑い、抽選という形で決めさせてもらいました。ケアマネージャー・傾聴ボランティア・大学生・福祉施設の職員に加え、家族に難聴の人がいるなどその対応に苦慮している方々からの申し込み動機でした。終了時にアンケート調査をしました。「聞こえにくい・聞こえない」人たちの気持ちがわかった。「筆談」の実技を通して書くことの大事さに気づいたとの感想に触れ、企画した講座内容の需要の高さを実感しました。



【筆談の実習】

■今後の活動の抱負について

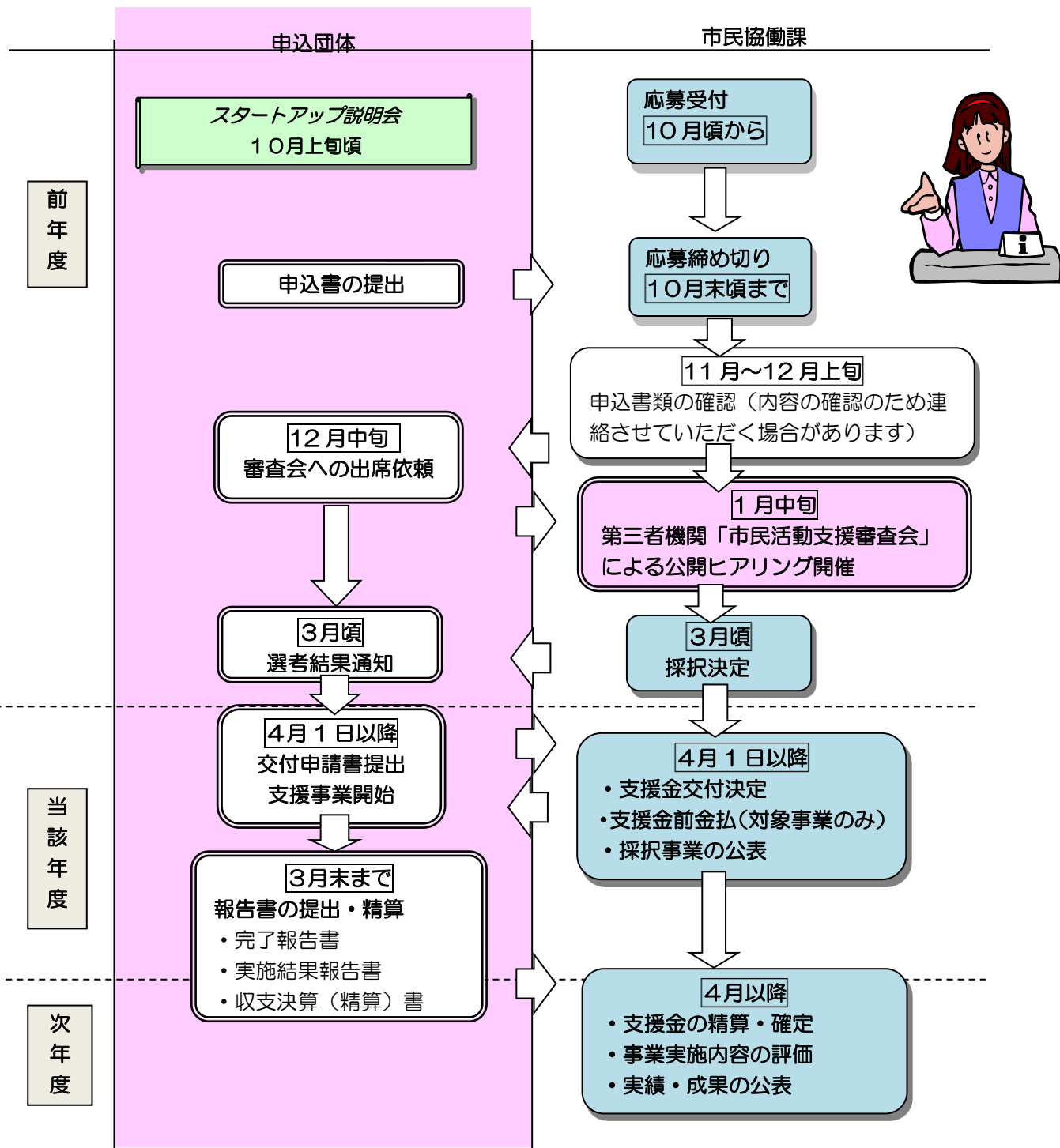
今回、定員を超える申込があり、選に漏れた方々や受講した方々から「次回開講」の希望を多くいただきました。高齢社会と共に、難聴になる人が増えていることはニュースでも報道されています。しかし、聞こえない・聞こえにくいことがどういう状況であり、どんな心理状態に置かれているのか、どのような対応が心を傷つけずコミュニケーションのバリアフリーに繋がるのか。こうしたことを地域で取り組み理解を深めることが、地域生活を風通しの良い状態にするのではないかと思います。「筆談を学ぼう」を定期的実施することで、コミュニケーションから孤立する人たちの解消に効果もあり継続の意義もあると考えます。

■問い合わせ先：理事 金田 敏子（かなた としこ）

TEL/FAX:047-432-8039

E-mail:ccnk@kzd.biglobe.ne.jp

【参考】 申込～審査～事業実施～事業完了までのおおまかなスケジュール



平成28年度事業の応募受付は、平成27年10月頃を予定しております

お問い合わせ：船橋市 市民生活部 市民協働課
〒273-8501 船橋市湊町2-10-25
TEL：047-436-3201
E-mail：shiminkyodo@city.funabashi.lg.jp